【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成16年11月25日(2004.11.25)

【公開番号】特開2002-173694(P2002-173694A)
【公開日】平成14年6月21日(2002.6.21)
【出願番号】特願2000-370798(P2000-370798)
【国際特許分類第７版】
　Ｃ１１Ｄ　1/722
　Ａ６１Ｋ　7/50
　Ｃ１１Ｄ　1/04
　Ｃ１１Ｄ　3/20
　Ｃ１１Ｄ　17/08
【ＦＩ】
　Ｃ１１Ｄ　1/722
　Ａ６１Ｋ　7/50
　Ｃ１１Ｄ　1/04
　Ｃ１１Ｄ　3/20
　Ｃ１１Ｄ　17/08

【手続補正書】
【提出日】平成15年12月10日(2003.12.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
【発明の実施の形態】
（１）本発明の洗浄料の必須成分であるポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリセリルエーテル
本発明の洗浄料はポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリセリルエーテルを必須成分として含有することを特徴とする。このものはグリセリンの３つの水酸基にそれぞれポリオキシエチレンとポリオキシプロピレンがブロック共重合した形態のものであるが、このものはグリセリンにプロピレンオキシド、エチレンオキシドを反応させることにより製造することができる。本発明に於いて、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリセリルエーテルにおけるオキシエチレンの平均付加モル数は５～４０が好ましく、更に好ましくは１０～３５であり、特に好ましく２０～３０である。又、オキシプロピレンの平均付加モル数は５～４０が好ましく、更に好ましくは１０～３５であり、特に好ましく２０～３０である。加えて、ポリオキシエチレンとポリオキシプロピレンの付加モル数の比は、２：３～３：２が好ましい。この様なポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリセリルエーテルは既に市販されているものが多数あり、これを利用することもできる。この様な市販品としては旭デンカ株式会社より販売されているアデカＧＨシリーズがあり、その中ではアデカＧＨ２００（ポリオキシエチレン（２４）ポリオキシプロピレン（２４）グリセリン）が特に好ましく例示できる。これらポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリセリルエーテルは唯１種を含有させることもできるし、２種以上を含有させることもできる。本発明の洗浄料に於ける、かかるポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリセリルエーテルの好ましい含有量は、洗浄料全量に対して、５～３０重量％であり、更に好ましくは、７～２０重量％である。これは、かかるポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリセリルエーテルが多すぎると洗浄性や泡立ちを損なうことがあり、少なすぎ

ると均一性を損なうことがあるからである。